

発売中  
100円

憲法9条を変えて、  
「戦争する自衛隊」にして  
いいのですか (憲法会議・発行)

# 社長が「問題解決できなければ進出しない」と明言

中津江鯛生自治会は18日、養豚場を計画する日本食品株式会社を呼び説明会を開催しました。周辺住民ら77名が参加。元養豚場に新たな施設を建設することに反対する意見が相次ぎました。

鯛生自治会長の赤星氏は「地元

の納得ができない限りは事業は進めない」と6月21日に言った。しかし、その時点で用地買収は決まっていた」と憤り、日本食品に説明を求めました。担当者は「用地の話は昨年夏からしていた。大変申し訳ない」と謝りました。

元養豚場から直線距離で百以上の住民は「(当時は)夜中の3時ころ臭いで目が覚める。みんな我慢していた」と訴えます。鯛生金山に勤める住民は、当時の日記をもとに「2014年6月17日、養豚場の汚水が川に流れて大騒ぎになった」と告発。別の住民は「悪臭がひどかった。今もヘドロみたいな物が川底にある。養豚場をや



「地元」の理解を得ずに進めている」と憤る赤星自治会長(写真左、18日)

めて10年たつけど、きれいなならない」と話します。  
その後も何人もの住民から「建設反対」「進出反対」の意見が相次ぎ、「理解を得てからとウソをついて事業を進める会社を信用しろと言っのか」などの厳しい声が出ました。  
元養豚場の債務を引き継いだ飼料会社の社長は「弁済の督促もあり、代金をせかした私が悪かったです。日本食品の信用を損なうことをやってしまった」と陳謝。日本食品の社長は「特に問題はないとの報告で話しを進めていた。地域の人の意見を大切にするというのが我が社の理念。問題解決できなければ進出しない」と明言しました。

## 養豚場建設計画に住民反発

中津江・鯛生  
説明会

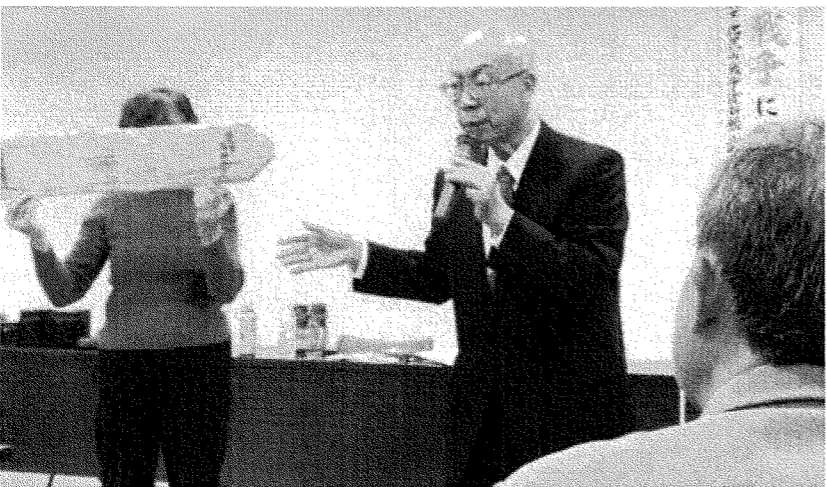
# 兵士・庶民の戦争資料館・武富副館長が話す

憲法9条を守る会は16日、兵士・庶民の戦争資料館・武富慈海副館長を招き、秋の学習会を日田地区教育会館で開催しました。参加者は、遺品が語る戦争の悲惨さをあらためて実感しました。

兵士・庶民の戦争資料館は、福岡県鞍手郡小竹町にあり、3千3百点にのぼる収蔵品の軍服や日章旗、千人針などを直に触れることができます。この資料館は、武富慈海さんのお父さん(元兵士)が「戦争の実相を知るには、戦場をくぐった物を見て触れること」を信念に私費を投じて設立しました。家族で運営してきた資料館は今年40周年を迎えています。

武富慈海さんは、養護施設の職員として8百人以上の身寄りのない人を社会に送り出してきました。現在、「この子たちを再び戦場に行かせない」との思いで資料

館の運営や講演を行っています。講演では、資料館から持ってきた遺品にまつわるエピソードを紹介し、戦争の悲惨さを語りました。「武運長久と書かれた千人針は、戦死をしないようにというお守り。あなただけ帰ってきてと言ったら非国民になる。女性の願いがこもった千人針。今はこんな物をする必要がない。自衛隊が海外派兵に行くときに、自衛隊員の妻たちがするかも知れませんね」と静かな口調で説明しました。  
参加者から「戦争を体験していない私でも、戦争遺品を使って話せるかも」との感想が出ました。



千人針の遺品を説明する武富慈海氏(日田地区教育会館16日)

## 遺品が語る戦争の悲惨さ

憲法9条  
秋の学習会